

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	国語表現	進学	2	宮城
教科書	なし				
副教材	小論文頻出テーマ チェック&ワーク				
評価基準	観点① 知識・技能 評価無し				
	観点② 思考力・判断力・表現力 評価無し				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業内の取り組み、主体的・積極的な関わりを評価項目とする				
考查	なし				
評価	各学期5段階で評価する ・授業内での取り組み、主体的・積極的な関わり ・提出物や発表内容等で総合的に評価する				
テスト・評価の内訳	観点① 評価無し				
	観点② 評価無し				
	観点③ 授業内の取り組み、主体的・積極的な関わりを評価項目とする				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文対策 ・面接対策 ・発表やディスカッション等のスキルを身につける ・主体的・積極的な関わりが必須となる 				
家庭学習	学習内容と進め方	必要に応じて行う			
	学習の目安時間・分量	必要に応じて行う			
	学習状況の確認方法	必要に応じて行う			
	成績評価との関係	必要に応じて判断する			
図書資料の活用等・探究へのつながり	必要な資料を読み、図書室を利用し内容理解の一助とする				

授業の計画

学期	月	教材	内容	
1	4	(1)ガイダンス	・授業の進め方の確認	
	5	(2)原稿用紙の使い方	・基本的なルール等を確認	
		6	(3)小論文対策 志望理由書など	・演習を繰り返し、技術を磨く
			7	
2	9	(4)面接対策とは	・模擬面接等を行えるようにする	
	10	(5)発表やディスカッション	・テーマに沿って活発に行う	
	11	(6)ディベートの実践	・テーマに沿って活発に行う	
	12			
3	1			
	2			
	3			

2024年

学年	教科	科目	単位	担当者
3	国語	受験国語	2	根本
授業のねらい	問題集を使用して演習形式の授業を展開し、大学入学共通テストを意識しながら確かな読解力・実践力を身につける。			
授業の概要と進め方	2時間続きであるため、基本的には以下のように進める。(2時間×2週で1セット) 【1時間目(現)】現代文演習 問題を解き、解説 【2時間目(現)】1時間目の続き、語句の確認 【3時間目(古)】古文演習 問題を解き、解説 【4時間目(古)】1時間目の続き、語句の確認			
習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ●現代文 「読解のキーワード」を参考にして、評論の重要語を学び、問題を解かせる。 分からない単語については調べさせて、単語の意味の理解を深める。 ●古文 用言・助動詞・助詞の復習をしながら問題を解かせる。 生徒の苦手なところを確認して進めていく。 			
テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内テストを行う 1学期 中間考査・期末考査 2学期 中間考査・期末考査 			
教科書副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ●論理的に考える LT現代文 ●論理的に考える LT古文 ●新明説総合古典文法・ワーク 			
図書資料の活用	必要な資料を読み、図書室を利用し内容理解の一助とする			

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	ガイダンス	中間考査
		演習 現代文：①～④	
	5	古典：①～④	
1	6	演習 現代文：⑤～⑩	期末考査
		古典：⑤～⑩	
	7		
2	9	演習 現代文：⑪～⑮	中間考査
		古典：⑪～⑮	
	10		
	11	演習 現代文：⑯～⑳	
2		古典：⑯～⑳	期末考査
	12		
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3年	国語	理解を深める現代文	進学文系	2	箕輪・具志堅
教科書	『文学国語』（数研出版）、『論理国語』（数研出版）その他、適宜指示する。				
副教材	適宜、使用教材は指示する。				
評価基準	観点① 知識・技能 漢字の書き取り、読み取り、語句の知識が身につけている。同値、言い換えや逆説等、文章の論理構造を正しく理解できる。作者名、成立年代、時代背景等の文学史に関する知識が身につけている。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 読解力を養い、文脈や筆者の伝えたいこと（作品テーマ）を的確に捉え、記述したり口頭で表現できること。情景描写や語りから登場人物の心情を捉え、本文内容を理解すること。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業に主体的に参加し、ノートの内容に工夫があり、ワーク等の提出物をしっかりと管理し、グループワークやペアワークに積極的な姿勢で臨むこと。また、読書に対する意欲を持つこと。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 漢字の書き取り等、語句等の知識、選択肢（接続語、段落相互の関係、傍線部前後からの文脈・文意の読み取り、同値・逆接等の把握、等）				
	観点② 演習問題・記述式 （内容理解、主張の把握、傍線部・文の言い換え、適語・適文の抜き出し脱文補充等）				
	観点③ ①予習(語句ノート) ②感想・まとめ ③課題 ④授業姿勢				
授業のねらい・進め方・注意点	初めて出会う文章を正確に読解する国語力を養っていくことを主眼とする。そのために教科書を主に用いて、様々な文章を読み、知識や教養を深めていく。また自身の考えや文章を理解する上での論理的な思考を順序だてて他者に伝えられるようペアワークには積極的に臨む。必ず本を用意し、授業冒頭か終わりの5分に読書活動を行う。				
家庭学習	学習内容と進め方	語句ノートを1冊用意する。 単元の文章、授業内読書、日常生活の中で触れて語義の分からない語を収集する。			
	学習の目安時間・分量	学習時間は指定しないが1週間で15語程度(ノート1ページ分)以上を書く。			
	学習状況の確認方法	毎週の授業冒頭で提出し確認する。			
	成績評価との関係	観点③の評価に加える			
図書資料の活用等・探究へのつながり	・必ず1冊本を携帯する。 ・ライトノベルや小説ではなく自身の進路に関連する分野の新書を読む。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	「メディアのテロル」	伝達の形式による情報の変化について考える。
	5	中間考査 「赤い繭」	作品に表象されるものを通して全体のテーマ・寓意を考える。
	6		
7	期末考査		
2	9	「人はなぜ働かなくてはならないのか」	「社会」における個人のあり方や枠組みについての文章を理解する。
	10	中間考査	
	11	「無用の人」	物語の背景や情景描写、語りから心情を捉える。
	12	期末考査	
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	保健体育	進路別体育	進学	2	松岡
教科書	教科書				
副教材	ノート				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書・副教材を正確に理解し、答えることができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 観点①で習得したことを元にグループ内活動やその他取り組みにおいて、生かすことができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業内活動において積極的に発言することができる。				
	授業内活動において積極的に発言することができる。				
考査	各学期100段階で表記をする 授業ごとに課題を科し、評価をする。授業ごとに取り組み等も評価対象とする。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 各授業ごとの課題を評価する。				
	観点② 授業ごとにおける課題についての提出状況を評価対象とする。				
	観点③ 授業内での取り組みなどをもとに評価をつける。				
授業のねらい・進め方・注意点	保健体育教師やスポーツ指導者(員)における基礎知識や体育の歴史を主に学習するとともに、スポーツという幅広い分野の中で興味関心を持つだけでなく問題解決をできるような学びの場とする。高校生という段階をふまえ、指導範囲を適切に設定し、段階的な授業構成とする。実技授業を行う際は、危険を避ける取り組みを十分に行う また、外部に複数回講義を依頼し、体育やスポーツを軸としたキャリア教育を考えた授業を行う				
家庭学習	学習内容と進め方	授業内で沿った内容を復習する			
	学習の目安時間・分量	30分程度			
	学習状況の確認方法	授業で学んだことをノート等で確認するとともに、ネット上で同様の内容を調査する。			
	成績評価との関係	授業内での評価およびテスト			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		現代高等保健体育教科書 現代高等保健体育ノート	オリエンテーション メンタルとスポーツ 食と健康 スポーツと科学 政治と金 オリンピック 海外と日本 生活習慣と健康(小林) スポーツドクター スポーツと教育
2		現代高等保健体育教科書 現代高等保健体育ノート	オリエンテーション 測定調査の仕方 グループ研究 グループ研究 発表 発表 自由課題設定 自由課題調査研究 自由課題調査研究 発表 発表 論文の書き方とテーマの決め方 測定調査の仕方 グループ研究
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	情報	情報応用	進学	2	熊谷
教科書	なし				
副教材	なし				
評価基準	観点① 知識・技能 情報技術を適切に理解し、コンピュータを操作することができるようになることを目指す。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 課題に対してどのように解決策を見出して、実際に解決できるだけの判断力等を養う				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業を真摯に取り組む姿勢を取る				
考査	1学期はICTプロフィシエンシー検定の受験を定期考査とする 2学期はワードとエクセルの実技試験が学期末に行う				
評価	1学期はICTプロフィシエンシー検定の試験結果を100点満点換算して評価をつける 2学期はワードとエクセルの実技テストを100点満点換算して評価を付ける。				
テスト・評価の内訳	観点① 情報社会分野とデジタル技術の一部分野の得点				
	観点② データサイエンスとデジタル技術の一部分野の得点				
	観点③ 授業態度及びレポートや感想文などの提出				
授業のねらい・進め方・注意点	大学でレポートやデータを整理する際に必要とされるスキルを身に付け、大学入試の際に優				
家庭学習	学習内容と進め方	プリントの振り返り			
	学習の目安時間・分量	授業ごとに1時間程度の復習を要する			
	学習状況の確認方法	試験の点数で状況を確認			
	成績評価との関係	試験の点数で成績を評価する			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	オリエンテーション	
	5	一般問題対策授業	一般問題の対策授業
	6	ICTプロフィシエンシー検定模擬試験	模擬試験を実施
2	9	会社見学	
	10	ワード授業	ワードの対策授業
	11	エクセル授業	エクセルの対策授業
3		ICTプロフィシエンシー検定試験	試験を受験する

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	英検対策L&R	進学	2	山崎・伊藤
教科書					
副教材	英検分野別10分ドリル準2級・英検総合トレーニング準2級				
評価基準	観点① 知識・技能 各分野別の設問に取り組み、テキストの問題に正確に解答することができる				
	観点② 思考力・判断力・表現力 総合トレーニングや英検準2級程度の問題に解答することができる				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ペアワーク、提出物、小テストに積極的に取り組んでいる				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 分野別のテキストの問題に正確に解答することができる				
	観点② 総合トレーニングやその他英検準2級程度の初見問題に正しく解答することができる				
	観点③ ペアワーク、提出物、小テスト				
授業のねらい・進め方・注意点	英検のリスニングとリーディングの対策を通し、リスニングと読解力を向上させる。 テキストを用いて2コマのうちの一コマでリスニング対策、もう一コマで読解の対策をする。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業の復習として解き直しを行う。リスニングはスクリプトを見ながら音読する。			
	学習の目安時間・分量	授業ごとに1時間程度の復習をする。			
	学習状況の確認方法	レシピーの課題提出、各章の小テスト			
	成績評価との関係	観点③			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		分野別10分ドリル 総合トレーニング	7回分 3回分 中間考査（授業内）
		分野別10分ドリル 総合トレーニング	7回分 3回分 期末考査
2		分野別10分ドリル 総合トレーニング3回分	6回分 中間考査
		分野別10分ドリル 総合トレーニング	7回分 3回分 期末考査
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	進路別物理	進学理系	2	榎本
教科書	物理基礎 (物基703) 実教出版 物理 (物理702) 実教出版				
副教材	新課程 フォローアップドリル物理基礎 ①運動 ②仕事・熱 ③波・電気 新課程 フォローアップドリル物理 ①力学・熱				
評価基準	観点① 知識・技能 単元ごとの語句 (名称や理論) の意味するところを正確に理解できる。 公式を使って、基本的な問題を解き、物理量を求めることができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 実験等によって得られた情報を整理・分析し、法則性や関係する物理量を求めることができる。また、得られた知識を使って応用的な課題を解決できる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業や課題に真剣に取り組む、知識や思考力等の成長のために努力できる。 また、学習した内容と日常生活との関わりなどについて調べたり考えることができる。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 ※授業内テスト 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 授業で取り扱った基本的な問題				
	観点② 応用的な問題・初見の問題				
	観点③ 提出物・普段の取り組み・小テスト等				
授業のねらい・進め方・注意点	物理を選択した人は、基本的には大学受験科目として物理を選択するであろうということを前提として、大学進学に向けて必要な最低限度の知識と技法を身につけることを目標として授業を行います。これまでの復習として、問題演習を行います。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業中に扱った問題を進める。 教科書や授業資料を振り返る。			
	学習の目安時間・分量	授業内テストまでに、その範囲の問題を解く。 授業で取り扱った内容はその日のうちに取り組むのが望ましい。			
	学習状況の確認方法	授業内テスト日に理科室1に提出			
	成績評価との関係	観点③に加える。			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	フォローアップドリル 補助として教科書	4月～5月中旬は「物理基礎①運動」について学習する。 5月下旬～6月は「物理基礎②仕事・熱」について学習する。
	5		
	6		
2	9	フォローアップドリル 補助として教科書	9月～10月中旬は「物理基礎③波・電気」について学習する。 10月下旬～11月は「物理①力学・熱」について学習する。
	10		
	11		
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	芸術科	書道III		2	佐藤敦子
教科書	書道III・光村図書				
副教材	自主教材				
評価基準	観点① 知識・技能 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 主体的に書の幅広い活動に取り組み、主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を通して心豊かな生活や社会を創造する態度を養う。				
考査					
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する (3観点の比率と算出法) 観点①50% 観点②20% 観点③30%				
テスト・評価の内訳	観点① 作品評価40点 書道史学習 書風の比較 知識 10点				
	観点② レポート、テスト等 10点 観点を書き込み プレゼン 10点				
	観点③ 課題提出状況 10点 授業態度（作品レベル向上、プレゼン等の取り組み）15点 自己評価5点				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・素直に柔軟に自分の身に取り入れるつもりで学習し、充実した時間に する。 ・書道学科授業見学、書跡鑑賞会（博物館見学）を実施する。 ・作品制作の雰囲気作り心がける。 ・大東文化大全国書道展、文化祭芸術展への出品。 				
家庭学習	学習内容と進め方	ほぼ毎回classroom配信する動画を授業前に見ておく。レポート作成は自宅等で行う。筆記テストに向けて学習しておく。			
	学習の目安時間・分量	毎回の動画視聴は10分程度。レポート、テストの準備は一週間ほど毎日30分学習。			
	学習状況の確認方法	作品およびレポート、筆記テストの採点。			
	成績評価との関係	観点別評価の内訳に準じる。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	レポート作成において図書館にある書籍を紹介する。 書道室に配架されている図書館の書籍を資料として活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	プリント 教科書p6～	オリエンテーション 篆書の学習
	5	教科書p10～ 教科書p14～ 半紙創作	隷書の学習 礼記碑 鄧石如
	6	手本を選ぶ	半切臨書作品 レポート課題 プレゼンテーション テスト
2	9	教科書p50～	漢字仮名交じりの書
	10	教科書p30～ 教科書p58～	仮名の学習 書風の比較 篆刻の学習
	11	半切創作	相互評価 プレゼンテーション レポート課題
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	外国語	中国語	進学	2	上田裕
教科書	山口直人ほか2023.『キャンパスで始める中国語』白帝社				
副教材	必要に応じて資料を配付します				
評価基準	観点① 知識・技能 中国の標準語である普通話の発音と基礎的な語彙、文法の習得				
	観点② 思考力・判断力・表現力 習得した知識を活用して中国語で表現する				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業での発音練習や課題にきちんと取り組む。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・注意点	中国の標準語である普通話の発音と基礎的な語彙、文法を習得することを目指します。教科書の内容に基づいて授業を進めます。発音練習や課題にきちんと取り組んでいただく必要があります。				
家庭学習	学習内容と進め方	復習をしてください。 教科書の音声を繰り返し聞いて発音し、教科書の本文を紙に書き写してください。			
	学習の目安時間・分量	その日学習した内容を15分～30分程度復習してください。			
	学習状況の確認方法	教科書の本文を書き写した紙を提出してもらいます。			
	成績評価との関係	観点③の評価に加える。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	必要に応じてその都度紹介をします。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	1.声調と母音 2.子音と鼻母音 3.軽声	四声、単母音、複母音、子音、鼻母音、軽声の練習
	5	4.声調変化、5.r化、6.数字 7.かんたんな会話	3声の声調変化、“不”の声調変化、“一”の声調変化、r化、数字、かんたんな会話の練習。中間考査
	6	第1課 第2課	人称代名詞、動詞述語文①、“吗”疑問文、指示代名詞①、省略疑問文、“的”の用法①、副詞“也、都”
	7	復習	復習、期末考査
2	9	第3課 第4課	動詞述語文②、所有を表す“有”、疑問詞疑問文、時間を表す名詞、形容詞述語文、反復疑問文 指示代名詞②
	10	第5課 第6課	量詞、“几”と“多少”、選択疑問文、完了を表す“了”、所在を表す“在” 名詞述語文、中間考査
	11	第7課 第8課	経験を表す“过”、助動詞①、連動文、前置詞①、時点の表現、時間量の表現、期末考査
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	芸術科	応用芸術（音楽）	進学	2	溝口 佳洋
教科書	なし				
副教材	なし				
評価基準	観点① 知識・技能 <small>【知識】</small> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 <small>【技能】</small> ・創作工夫を生かした音楽表現をするために必要な技術を身に付け、歌唱、演奏、創作で表している。 ・曲にふさわしい服装、言葉の発声、身体の使い方の技術を身に付けている。（歌唱） ・他者との調和を意識して演奏する技術を身に付けている。（演奏） ・反復、変化などの手法を活用して音楽をつくる技術を身に付けている。（創作）				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚している。 ・それらの働きを感じながら、知覚した事と感受したこととの関わりについて考えている。 ・どのように表すかについて表現意図をもっている。 ・音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聞いたりしている。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・主体的、協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。				
考查					
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 【3観点の比率と算出法】 観点①50% 観点②20% 観点③30%				
テスト・評価の内訳	観点① <ul style="list-style-type: none"> 筆記小テスト（25点） 実技取り組み（25点） ※内訳は学期によって変動する可能性あり				
	観点② <ul style="list-style-type: none"> 振り返りシート（10点） 鑑賞シート（10点） ※内訳は学期によって変動する可能性あり				
	観点③ <ul style="list-style-type: none"> 授業態度や他者との協働（15点） 自己評価シート等（15点） ※内訳は学期によって変動する可能性あり				
授業のねらい・進め方・注意点	・集団で活動する内容も多いため、一人ひとりの協力的な雰囲気づくりが重要。 ・作品提出や演奏の練習では、自らを分析的に客観視し、こだわりを持って追及する。 ・文化祭での発表を経て、「達成感」が得られるように活動していく。				
家庭学習	学習内容と進め方	各学期末に行う授業内筆記試験のために、その時期は各自で自宅学習をしていただくことが不可欠となる。また、自宅での学習課題を多く課す予定はないが、授業内で終えることができなかった提出課題を、自宅で行ってこようことを求める場合がある。			
	学習の目安時間・分量	授業内筆記試験の自宅学習については、最低1～2時間は必要である。レポート課題や創作物に関しては、自らが納得のいくレベルまで突き詰めることが本質であるため、それに必要な時間は人それぞれである。自宅での活動は「延長活動」であるため、納得がいくまで時間をかけてほしい。			
	学習状況の確認方法	筆記試験の得点、レポートの提出内容			
	成績評価との関係	「テスト・評価の内訳」に準じて成績に反映する			
図書資料の活用等・探究へのつながり	学期ごとに提出レポート課題の作成で、図書室の資料を活用する。また、音楽の世界をあらゆる角度から知ることは、授業だけでなく人生においても役立つことが多い。課題に限らず積極的に活用してほしい。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	プリント	音楽史 ①古典派 ②ロマン派 ③ポピュラー音楽
	5	プリント	グループ合奏 曲決め・パート決め 譜読み
	6		個人練習・合わせ練習
	7		発表 レポート提出 筆記試験
2	9	プリント	全体合奏① 曲決め・パート決め 譜読み 個人練習・合わせ練習
	10		レコーディング
			全体合奏② 曲決め・パート決め 譜読み 個人練習・合わせ練習
	11		レコーディング レポート提出
※上記の内容は履修したメンバーの進路状況によって変更される場合もあります。			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	芸術	応用芸術 (美術)	進学	2	小西
教科書	なし				
副教材	なし				
評価基準	観点① 知識・技能 知識：造形要素の働きの理解、イメージや作風、様式などでとらえることへの理解 技能：材料や用具を生かす技能、創造的に表す技能 創造的に思考・判断・表現するための言語を使用する基礎的な技能				
	観点② 思考力・判断力・表現力 主題の生成、発想、創造的な表現を構想する能力/創意工夫を思考し取捨選択する能力 造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働き、美術文化などについて考え、伝える能力 (鑑賞)				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 主体的に美術の幅広く深い活動に取り組む態度				
考査	なし				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する				
テスト・評価の内訳	観点① 知識・技能 (50点) 美術の基礎的な言語技能5点、作品45点				
	観点② 思考力・判断力・表現力 (20点) 構想メモ、制作中の振り返りWS (ワークシート)、鑑賞WS				
授業のねらい・進め方・注意点	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 (30点) 提出物10点、積極性10点、制作終了後の振り返りWS10点				
	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成する。				
家庭学習	学習内容と進め方	作品のアイデアは事前に考えて、制作時間をロスしないようにしましょう。特に3年次は各自のテーマや課題を深めます。関心のあるテーマや技法のリサーチを独自に行ってください。			
	学習の目安時間・分量	アイデア出しは納得のいくまで行いましょう。その後の制作のモチベーションに影響します。			
	学習状況の確認方法	構想メモWSやレポートに記述します。			
	成績評価との関係	観点②に加えます。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	授業時に美術や芸術に関連する書籍を紹介する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	デッサン用具	オリエンテーション 箱型のデッサン (白立方体ほか)
		アクリルガッシュ ibisPaint WS (ワークシート)	名画の色彩採集、配色パレット作成 構図分析
	5、6	国立西洋美術館 (上野) 油彩道具、メディウム アクリルガッシュ、パネル他	美術館見学 以下から選択して作品制作 ●油彩による人物画 ●デザイン
6	WS	生徒作品の鑑賞、振り返り	
2	9	WS	作品の仕上げ 作品の発表会
		WS アクリルガッシュ他多様な画材 WS	音楽と美術 (鑑賞) 音楽と美術 抽象画制作 生徒作品の鑑賞、振り返り
	10	東京国立近代美術館 (竹橋)	美術館見学
11		自由制作 (テーマ、手法・技法を個人で選択) 生徒作品の鑑賞&振り返り	
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	進路別選択	進学	2	屋名池
教科書	2年次までに使用した教科書				
副教材	2年次までに使用した問題集 プリント				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書の例題・練習問題およびそれに類する問題を解けるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 教科書の応用例題およびそれに類する問題を解けるようにする。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業内での取り組みを評価する。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	定期考査ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書の例題・練習問題およびそれに類する問題 50点				
	観点② 教科書の応用例題およびそれに類する問題 50点				
	観点③ 授業内演習に対する取り組み等 10点				
授業のねらい・進め方・注意点	主に数学IIIの内容を中心に演習を行う。演習では教科書の例題レベル～入試問題レベルまで幅広く扱う予定なので、仮に数学IIIを使わない進路選択をしたとしても、授業では割り切って取り組むことを心掛けてほしい。				
家庭学習	学習内容と進め方	その日扱った内容を十分に理解できるまでその日のうちに復習することを推奨する。			
	学習の目安時間・分量	十分に理解できているのであれば時間は問わない。			
	学習状況の確認方法	演習の取り組みなどによる。			
	成績評価との関係	日頃の取り組みが定期考査に直結する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	必要に応じて各自参考書を活用してください。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書・問題集・プリント	数学IIIの進捗状況による
	5		
	6		
	7		
2	9	教科書・問題集・プリント	数学IIIの進捗状況による
	10		
	11		
	12		
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	進路別数学	進学	2	宮山
教科書	適宜プリントを用意する				
副教材	数IAIIBの教科書				
評価基準	<p>観点① 知識・技能 1,2年次に授業で学習した事項を思い出し、適切なタイミングで利用できる</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 観点①に挙げたような事項を利用して、より複雑な問題を解くことができる。①に挙げたような事項が基づく原理を理解することができる。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 周囲の生徒と話し合いながら知識を思い出し、問題を解こうとする態度</p>				
考査・評価方法	<p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。 定期考査ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。</p>				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<p>IAIIBの範囲を扱う。1学期はスケール対策として教科書 & +αのレベルの問題を扱う。 2学期は受講生との志望校を考慮し、過去問を利用して入試問題演習に取り組む。</p>				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		プリント	<p>【スケールテスト対策】 数IAIIの教科書レベルの問題演習 適宜応用問題を扱う</p>
2		プリント	<p>数IAIIBの範囲の入試問題演習を行う。</p>
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	化学	進学	2	加瀬
教科書	化学academia 実教出版				
副教材	アクセスノート化学 プリント				
評価基準	観点① 知識・技能 語句 単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解する。 技能 実験の際に、適切に器具を使用し、実験のねらいを果たす。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 問い 単元ごとの代表的な問いについて学ぶことで、科学的な見地を手に入れる。 意見 状況に応じた理論の活用を行い、自分自身の意見を形づくる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 意欲 自分で必要だと思ったことを実施し、語句の修得のための努力を重ねる。 関心 修得した理論の歴史や社会的意義を、調べたり考察したりする。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 語句など基本事項の理解を問う。また教科書・副教材の例題・練習問題やその類題。				
	観点② 内容の理解や応用力を問う。教科書・副教材の応用例題やその類題。				
	観点③ ノートや振り返りの中身に表れる意欲や、授業や課題に対する取り組み。				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のすべてが授業者による内容の解説にならないように配慮する。 ・知識の詰め込みではなく、日常生活でも論理的思考が出来るように促す。 ・毎授業の終わりに、学習の自己調整についての考えを整理する時間をつくる。 ※授業中の教員の話は、重要なことが多いのでしっかり聞くこと。				
家庭学習	学習内容と進め方	①授業内容をしっかりと復習しましょう（授業後や間隔をあけて取り組むこと） ②副教材や提示された問題集を2周以上取り組みましょう（アウトプットの時間を十分に設けること）			
	学習の目安時間・分量	各授業ごとに20～30分程度の復習を行う。各考査前は時間ではなく、問題集を何回やるか決める。			
	学習状況の確認方法	考査で授業担当者に課題を提出をする。			
	成績評価との関係	観点③として評価する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	必要に応じて各自参考書を活用しましょう				

授業の計画

※ 授業の進度により、変更することがあります

学期	月	教材	内容
1	4・5	教科書・問題集・プリント	希薄溶液の性質 コロイド
	5・6・7		化学反応と熱 (～結合エネルギーまで)
2	9・10	教科書・問題集・プリント	電池・電気分解
	11・12		反応速度・化学平衡
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	英検対策	進学	2	井原
教科書	なし				
副教材	英検2級 二次試験・面接完全予想問題（旺文社） 英検2級 ライティング問題 英検合格のための要約問題予想問題集（Gakken）				
授業のねらい	<p>英検対策の中でも英作文（W:ライティング）と二次面接対策（S:スピーキング）に重点を置くことで、そのコツを集中的に学び、合格をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライティング 構造の型、表現の型を身につける。様々なトピックについて作文練習をし、添削を受けて、改善するというサイクルで学ぶ。また新しく加わった要約問題についても学ぶ。 ・二次面接対策（スピーキング） 評価基準を知り、各問に対する応答の仕方を繰り返し練習する。様々なパターンの練習をすることで過度に緊張することなく面接に臨める姿勢とスキルを身につける。 				
授業の進め方概要と	<p>2時間連続の授業を以下の流れで進める。 レクチャーを活用することがある。</p> <p>1時間目 ライティング 2時間目 二次面接対策</p>				
テスト・授業姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内テストを行う 1学期 中間考査・期末考査 2学期 中間考査・期末考査 ・授業姿勢 課題等の提出、ペアワークへの取り組みなども総合的に評価する。 				
授業のねらい・進め方・注意点					
家庭学習	学習内容と進め方	書いた文章を正確にアウトプット（書く、話す）できるよう練習する。			
	学習の目安時間・分量	毎回の授業後、合計で30～60分程度			
	学習状況の確認方法	提出は不要			
	成績評価との関係	授業で扱った内容はすべてテスト範囲となる			
資料の活用等・探究へのつな					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	ガイダンス	
		演習 W:例題、要約01,02、Chap2 U1,2	
	5	S:Day1,2,3	
		中間考査	
	6	W:要約03,04、Chap2 U3,4 S: Day 4,5	
	7	期末考査	
	2	9	
10		W:要約07,08、test2 S:Day8 中間考査	
11		W:要約09,10、test3 S:Day9,10	
12		期末考査	
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	生物	進学	2	岡田
教科書	「生物基礎」第一学習社				
副教材	「スクエア最新図説生物」第一学習社				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書および図説の内容の十分な理解を目指す。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 内容の理解を目指す過程で、授業者どうして学び合うシーンを多く取り入れる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 学び方に関するサマリーを作成する。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 用語の意味を問うような、単純な知識問題が大部分となる。				
	観点② 文脈を正しく読み解く必要があるような、考察を要する問題が大部分となる。				
	観点③ サマリーの内容を元に判断する。				
授業のねらい・進め方・注意点	学習者...学習項目の理解にどれほど自分自身の思考を巡らせたか?に注目する。 授業者...学習者の思考がより深いものになるように注力する。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業内容を再現する。 家庭学習用のプリントを解答する。			
	学習の目安時間・分量	各自で判断する。			
	学習状況の確認方法	不定期。 授業者の求めに応じ、都度、提出の準備をしておく。			
	成績評価との関係	家庭学習を評価に入れることはしないが、適切に実行していないと、定期考査に響くことを自覚する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	特になし				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 図説	①4月～5月中旬は「第1章生物の特徴」について学習する。5月下旬～6月は「第2章遺伝子とその働き」について学習する。 ②学習方法は、学習者どうして学び合いを通じ内容の理解を進める...というものとする。 ③授業者が実力テストを実施する。この成績に対して、学習者は、学び方について反省し、後日の自主学習の計画を練る。
	5		
	6		
	7		
2	9	教科書 図説	①9月～10月中旬は「第3章ヒトのからだの調節」について学習する。10月下旬～11月は「第4章植生と遷移」「第5章生態系とその保全」について学習する。 ②学習方法は、学習者どうして学び合いを通じ内容の理解を進める...というものとする。 ③授業者が実力テストを実施する。この成績に対して、学習者は、学び方について反省し、後日の自主学習の計画を練る。
	10		
	11		
	12		
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	Intermediate English	進学文理	2	井原
教科書	なし				
副教材	英語長文読解 プラクシス Level 2 Stellar 4 英文法短期集中演習15回				
授業のねらい	大学受験（標準）レベルの英語力を身につけるために、文法・語彙・読解等の総合問題演習を行う。				
授業の進め方の概要	2時間続きであるため、基本的には以下のように進める。 【1時間目（長文）】プラクシス 問題を解き、解説 【2時間目（文法）】Stellar 4 問題を解き、解説				
テスト・授業姿勢	・授業内テストを行う 1学期 中間考査・期末考査 2学期 中間考査・期末考査 ・授業姿勢 ワーク等の提出、ペアワークへの取り組みなどを総合的に評価する。				
授業のねらい・進め方・注意点					
家庭学習	学習内容と進め方	・長文の音読、間違えた個所の見直しを行う。 ・文法問題の間違えた個所の見直しを行う。			
	学習の目安時間・分量	毎回の授業後、合計で30～60分程度			
	学習状況の確認方法	提出は不要			
	成績評価との関係	授業で扱った内容はすべてテスト範囲となる			
教材の活用等・探究へのつな					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	プラクシス	1-1～1-4 Lesson1～3
		Stellar 4	
	5	プラクシス	1-5～1-7 Lesson4～6
		Stellar 4	
		授業内テスト	
	6	プラクシス	2-1～2-3 Lesson7～9
		Stellar 4	
7	授業内テスト		
2	9	プラクシス	2-4～2-7 Lesson10～11
		Stellar 4	
	10	プラクシス	3-1～3-3 Lesson12～13
		Stellar 4	
		授業内テスト	
	11	プラクシス	3-4～3-6 Lesson14～15
Stellar 4			
	授業内テスト		
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	Active English	進学	2	Morley・増村・Min Zhuang
教科書	なし				
副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・自主教材 ・自主作成スライド 		<ul style="list-style-type: none"> ・レシピー (POLYGLOTS) ・schoolTackt 		
評価基準	Content & Ideas 内容・考え (35) Organization & Structure 構成・構造 (10) Language Use 言葉の使い方 (15) Delivery & Fluency 話し方・流暢さ (15) Pronunciation 発音 (15) Engagement / Effort 参加・努力 (10)				
プレゼンテーション	1学期：6回 2学期：6回 計12回実施 各プレゼンテーションは、100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する (実施したプレゼンテーションの平均)				
評価の内訳	Content & Ideas 内容・考え (35) Organization & Structure 構成・構造 (10) Language Use 言葉の使い方 (15) Delivery & Fluency 話し方・流暢さ (15) Pronunciation 発音 (15) Engagement / Effort 参加・努力 (10)				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションをすることを通して、伝わる英語力の養成をする。 ・様々なトピックについて考え、クラスメイトと意見を交換し、原稿を書き、伝えることで、将来に備える。 ・クラス内で互いに学び合う。ペアワークで協力して発表を行う技術も磨く。 ・トピックについての表現を学び、語彙や表現等を調べ、原稿を作成する。 ・授業でクラスの前で発表する。 ・プレゼンテーションを聴き、クラスメイトのプレゼンテーションについてフィードバックを行う。 ・聞き手に伝わるように、前向きな態度で発表やプレゼンテーションに臨む。 				
家庭学習	学習内容と進め方	トピックについての講義内容を復習し、自分の原稿内容を大まかに考え、論理的に英語でレシピー上で書く。レシピー上に原稿を提出する。レシピーの文法や語彙の修正案を確認しながら音読し、スクールタクトに原稿を貼る。			
	学習の目安時間・分量	1週間に、原稿を1つ書く。個人差はあるが1時間程度が望ましい。授業でプレゼンテーションをするまでに実際に発音し、練習をしておく。			
	学習状況の確認方法	レシピー上に記入した原稿をスクールタクト上に貼り、期限内に提出する。			
	成績評価との関係	プレゼンテーションに必要な原稿であり、プレゼンテーションをすることにより成績にも成果が反映される。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	トピックに関する洋書や記事を読み見聞を広める。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		自主教材 自主作成スライド	1. Self-introduction & Name 2. Weaknesses/Mistakes/Strengths 3. Travel recommendations // Which place do you recommend the most to people from different countries or your friends? 4. My 10-year plan 5. What are the benefits of studying English? 6. What are the important skills to have good relationships with other people?
2		自主教材 自主作成スライド	7. Current technology//The advantages and disadvantages of social media on society 8. Current domestic/global problems and your opinions on how to solve them 9. Film (What did you learn from it?) 10. The significance of cultural diversity 11. What is the role of teamwork in life (e.g. family, school, and sports)? 12. Work-life balance
3		なし	なし
			*記載内容に関しては、状況によって変更する可能性もあり。

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地理歴史	日本史	進路別	2	鹿内
教科書	山川出版『詳説 日本史探究』				
副教材	帝国書院『図説 日本史通覧』 啓隆社『日本史重要語句Check List』				
評価基準	観点① 知識・技能 基本的な用語を理解し、それがどのような役割を持っているのかを把握できる				
	観点② 思考力・判断力・表現力 人々の動きや感情、経済活動等を把握し、事象の原因が何か、そしてその結果が更なる原因となっていることを把握できている				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 深く広く学ぶためのワークに積極的に取り組み、主体的に社会を知ろうとする。				
考査					
評価	レポート提出と授業への取り組み				
テスト・評価の内訳	戦後日本への理解を深められたか。				
授業の進め方・注意点	(ねらい)事象を経済的観点、政治的観点等様々な視点からみられるようにする。また、人々の感情が根底にあることを理解する。 (注意点)単なる一問一答にならないように用語同士のつながりを説明していく。また、歴史を縦と横で理解できるようにする。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業の復習として、『Check List』を利用すること。			
	学習の目安時間・分量	1時間の授業に対して、1時間の復習を目安とする。			
	学習状況の確認方法	授業内テスト等で学習の到達度を測る。			
	成績評価との関係	2年次の日本史探究の定期考査同様、定期考査では『Check List』から10点分を出題する。			
図書資料の活用	授業中に図書資料を紹介する 長期休暇中に図書資料を活用した課題を課す				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4月	教科書・史料集・ワークシート	占領と改革
	5月		中間テスト
	6月		冷戦の開始と講和
	7月		55年体制 期末テスト
2	9月	教科書・史料集・ワークシート	経済復興から高度成長へ
	10月		中間テスト
	11月		経済大国への道
	12月		冷戦の終結と日本社会の変容 期末テスト

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地理歴史	世界史	進学	2	長尾
教科書	【世探704】詳説世界史 山川出版				
副教材	山川 詳説世界史図録 第5版 (世探704準拠) 世界史探究 詳説世界史 授業用 整理ノート (世探704準拠)				
評価基準	観点① 知識・技能 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書・ワークシート・史料集				
	観点② 正誤判定問題・史料問題・論述問題				
	観点③ 普段の授業姿勢・提出物・長期休みの課題・小テスト				
授業のねらい・進め方・注意点	現代の世界史の基礎・基本的な事項を学ぶ。 また、暗記ではなく、歴史に関する知識を深め、異なる地域を比較・関連付けて考察する力をつける。 世界史発展で扱えなかった範囲を細かく取り扱う。				
家庭学習	学習内容と進め方	日々の生活でのニュース (自分が日々感じていること) が学びにつながる。日頃の興味・関心・疑問はその都度、消化・解決しながら過ごしてほしい。			
	学習の目安時間・分量	予習よりも復習に重点を置いてその日の学習内容を30分以内で確認してほしい。アプリやwebツールを使うことで効率化が図れるので授業中に使用しているものは家庭学習でも取り入れてほしい。			
	学習状況の確認方法	ニュース、時事問題を目や耳にしたときや地理の授業時に、習得した知識・技術が発揮し自分なりの考えを持つことができれば良いと考える。			
	成績評価との関係	課題などの提出物は観点③に加算します。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	探究レポート課題や発表で参考文献として図書室にある書籍を活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書:『詳説世界史』 副教材:『詳説世界史ノート』 『詳説世界史授業用整理ノート』 『詳説世界史図録』	第18章 冷戦と第三世界の台頭 1 冷戦の展開
	5		2 第三世界の台頭とキューバ危機
	6		3 冷戦体制の動揺
2	7		
	9	教科書:『詳説世界史』 副教材:『詳説世界史ノート』 『詳説世界史授業用整理ノート』 『詳説世界史図録』	第19章 冷戦の終結と今日の世界 1 産業構造の変容
	10		2 冷戦の終結
	11		3 今日の世界
12	4 現代文明の諸相 地球世界の課題の探究		

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	公民科	進路別政治経済	進学	2	芳野
教科書	実教出版『詳述 政治経済』				
副教材	実教出版『詳述 政治経済 演習ノート』 河合出版『速習マスターノート 小論文・総合問題で問われる図表読み取りの攻略20』				
評価基準	観点① 知識・技能 現代日本社会・国際社会の諸課題を把握するうえで必要な国内・国際政治の概念や理論を理解し、課題解決に必要な情報を適切に収集し読み取る技能を身に付けている				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ○課題に関する諸資料を読み取り、その背景などを考察し、よりよい社会をつくるための判断を、根拠をもっておこなっている ○課題解決に向けて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ○粘り強く知識・技能を獲得したり、思考・判断・表現しようとしている ○自分の考えを伝わりやすくするための工夫をおこなっている				
考査	1学期中間前・1学期期末前・2学期中間前・2学期期末前の授業内に計4回実施				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する				
テスト・評価の内訳	観点① ○政治の基本概念を正確に把握・理解し、それを記述できる ○課題解決の糸口となる資料を正確に収集・分析できる				
	観点② ○課題に関する資料の分析から、状況に応じた適切な判断ができる ○多面的・多角的な考察をもって、課題の解決に向けた自分の考えを発表できる				
	観点③ ○課題を自分事としてとらえ、授業の活動に意欲的な姿勢で取り組んでいる ○相手への伝わりやすさを意識しながら自分の考えを論述・発表できる				
授業のねらい・進め方・注意点	授業のねらい ○社会課題を”自分ごと”として捉え、その解決方法を自分なりに考えられるようにする ○社会に出てから必要な教養や思考法を身に付ける 授業の進め方・注意点は授業内で説明します。				
家庭学習	学習内容と進め方	社会に対する興味・関心をもつため、ニュースに目を通しましょう。その際、一つの媒体から情報を得るのではなく、いわゆる”オールドメディア”も含め、さまざまな媒体にふれるとよいです。図書室には各社新聞がそろっています。			
	学習の目安時間・分量	自分の興味・関心度合いに応じて。他の活動とバランスをとりながら、自分の学習スタイルを築いてください。			
	学習状況の確認方法	授業内テストや、授業で行う探究学習を通じて。			
	成績評価との関係	授業内テストの結果や、授業で行う探究学習の成果につながります。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	○『朝日中高生新聞』など、各社の新聞が図書室にそろっています ○映画『トゥルーマン・ショー』をはじめ、授業内で書籍・映画を適宜紹介します				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4		図表の読み取り 社会課題に対する探究活動
	5	教科書 副教材	授業内テスト①
	6	必要に応じて 担当者作成の資料	図表の読み取り 社会課題に対する探究活動
	7		授業内テスト②
2	9		図表の読み取り 社会課題に対する探究活動
	10	教科書 副教材	授業内テスト③
	11	必要に応じて 担当者作成の資料	図表の読み取り 社会課題に対する探究活動
	12		授業内テスト④
大学入試で政治経済を受験科目として使用(予定)の生徒は、声をかけてください。			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地理歴史	進路別選択地理	進学文理	2	佐々木
教科書	『高校生の地理総合』(帝国書院)、『新詳高等地図』(帝国書院)				
副教材	『高校生の地理総合ノート』(帝国書院)				
評価基準	いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解し、地域の結びつき、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解している。				
	現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現している。				
	現代世界の地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 授業内テストを行う。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 授業内テストと2学期に行う発表、授業への取り組みで評価する。				
テスト・評価の内訳	教科書・ノート、授業で出てくる用語の記述や短文の選択 正誤判定問題・地図問題・資料問題・論述問題 普通の授業姿勢・提出物・発表・レポート				
授業のねらい・進め方・注意点	(ねらい)地球表面の諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性や地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取り組みを理解し、地球的諸課題について多角的に考察する力を身に着ける。 (注意点)知識の習得にとどまるのではなく、様々な地球的課題の解決に向けて、その知識をどのように活かしていくのか、また、持続可能な社会の構築にどのような知識を身に着けたらよいかを考えながら、授業を受けてください。				
家庭学習	学習内容と進め方	社会情勢に関心を持ち、日々のニュースと教科書の中の事柄を結び付けて考えられるように、様々な情報に触れるよう心掛けてほしい。			
	学習の目安時間・分量	1日10分以上、新聞やテレビなどのニュースに触れる時間をとること。ネットニュースだけでなく、オールドメディアなどの媒体も活用すること。			
	学習状況の確認方法	時事問題に関するレポートを課す。			
	成績評価との関係	提出物の点数とする。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	新聞記事に関するレポート提出を課す。 図書資料の紹介を行う。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4月	東南アジア	他地域との結びつきが生活文化に与えてきた影響
	5月	インド	ヒンドゥー教と生活文化の関わり
		中間考査	
	6月	中央アジア・西アジア・北アフリカ	乾燥地域ではぐくまれてきた生活文化の変化
サハラ以南アフリカ		植民地支配の歴史と生活文化の変化	
7月	ロシア	寒冷な気候と生活文化に見られる工夫	
	期末考査		
2	9月	アメリカ	産業技術の発展と生活文化のかかわり
	10月	ラテンアメリカ	開発の歴史と生活文化のかかわり
		オセアニア	結びつきの変化がもたらす生活文化への影響
	11月	中間考査	
		地理の視点からみた世界遺産	様々な世界遺産を地理的な視点から分析する
12月	期末考査		
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	家庭	家庭一般	進学	2	矢部
教科書	自主教材 クリエイティブリビング				
副教材	家庭科55デジタル				
評価基準	観点① 知識・技能 生活を主体的に営むために必要な家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などの基礎的なことについて理解するとともに、それらに係る技能が身に付けている。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 生涯を見通して、家庭・社会における生活の中から問題を見出して課題設定し、解決策を構想する力を身に付けている。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協力し、よりよい社会の構築に向けて、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。				
考査	なし				
評価	・授業内で制作する作品（かるた・絵本・紙芝居等） ・実技テスト(切り方テスト、献立作成等)、小テスト ・課題・レポート作成(校外授業、外部講師による講習)				
テスト・評価の内訳	観点① 知識・技能 制限時間内で行う実技テスト、献立作成、作品制作				
	観点② 思考・判断・表現 校外授業での取り組み、外部講師による実習の取組等				
	観点③ 主体的な取り組み 課題・レポート作成の内容等				
授業のねらい・進め方・注意点	卒業後、自分自身でよりよく生きるために必要な知識・技能を習得し活用できる力の育成と社会の構築に向けて主体的に生活を創造する力の育成を目指しています。 生徒一人ひとりが自ら生活をつくる主体であることを実感できるように、1学期は保育分野、2学期は食物分野に着目しながら授業展開を考えています。				
家庭学習	学習内容と進め方	教科の特性として、毎日の生活での経験や体験（自分が日々感じていること）が学びにつながる。日頃の興味・関心・疑問はその都度、消化・解決しながら過ごしてほしい。			
	学習の目安時間・分量	卒業後、自立して生活するには特に衣・食・住に関しては、他者に助けを求めず、自力で解決することが大切である。そのためには繰り返し経験を積むことが望ましい。			
	学習状況の確認方法	生活の中で困難な場面に遭遇した時に、習得した知識・技術が発揮できれば良いと考える。			
	成績評価との関係				
図書資料の活用等・探究へのつながり	夏・冬休みを利用して様々なボランティア活動に参加してほしい オープンキャンパスに参加し、体験実習を経験してほしい				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		自主教材	子どもの成長の特徴
		校外実習にむけて	食育かるたづくり クイズ・なぞなぞ絵本づくり
		校外実習(青桐幼稚園)	園児とのふれあい・作品の発表
		校外実習を終えて	レポート作成・提出
		調理実習	幼児のおやつ
2		自主教材	生活習慣と食事 現代の食生活
		自主教材	献立作成
		外部講師による講習	調理実習 実技テスト
		自主教材	テーブルマナー 行事食 調理実習 課題提出
		外部講師による講習	着こなしセミナー実施（洋服の青山）
3			